



9月9日は「救急の日」

～ 豪雨から命を守る「引き返す勇気」～



救命救急センター長
不動寺 純明

地域の皆様、平素より当院の救急医療にご協力いただき心より感謝申し上げます。

先月、千葉県北部を襲った豪雨では多くの浸水被害が起きました。被害に遭われた方々には心よりお見舞い申し上げます。この豪雨では多くの道路も冠水し、県内で2,000台以上の車が立ち往生する事態となりました。

9月9日の「救急の日」を迎えるにあたり、皆様へ「水害時の車の危険性」についてお伝えします。車は意外なほど水に弱く、水深約30cm(タイヤの半分程度)でエンジンが停止する危険があります。さらに、濁った水は深さが分からないだけでなく、外れたマンホールや側溝との境界線が見えなくなるため非常に危険です。

「前の車が通れたから」と過信せず、冠水路やアンダーパスには絶対に進入しないでください。危険を感じたら「引き返す勇気」を持つことが何より重要です。



万が一、車が浸水して止まってしまった場合は、パニックにならず以下の行動をとってください。水深が約60cmに達すると、水圧により車内からドアを開けることは不可能になります。

1.エンジンを再始動させない ショートによる車両火災を防ぐため、キーは回さないでください。

2.ただちに窓を開ける 電気系統が動くうちに窓を開け、脱出口を確保してシートベルトを外してください。

3.窓から脱出し避難する ドアが開かない場合は窓から車の屋根などへ抜け出し、速やかに安全な場所へ避難してください。

万が一窓が開かなくなった場合に備え、窓ガラスを割る「緊急脱出用ハンマー」を車内に常備しておくことを強くお勧めします。

いざという時の正しい知識と行動が、ご自身と大切な人の命を救います。当センターも引き続き地域の命を守るため尽力してまいります。



2025年度 救命救急センターからのご報告

	人数・件数(前年度)
救急受診者	22,888人(24,902人)
救急車搬送	4,612件(4,539件)
ドクターヘリ等のヘリ搬送	93件(84件)
救急車不応需率	189件、3.9%(293件、6.1%)

シルバーウィーク 9月19日(土)～23日(水) クリニックは休診です

亀田クリニックは、9月19日(土)から23日(水)まで休診となります(歯科センターを含む)。定期的にお薬を処方されている方は、お薬が不足しないよう、事前に主治医へご相談ください。

休診期間中に体調不良となった場合は、救命救急センターをご受診ください。

来院前に下記へご連絡ください

04-7092-2211 (代表番号)



救命救急センター
の上手なかかり方

※紙の保険証は8月から使用できません

院内サービス施設についても、営業時間の短縮や休業となる店舗があります。ご利用の際は事前にご確認ください。

bayfm 「MEDICAL UPDATES」

FMラジオ局ベイエフエム『it!!(イット)』では、毎週火曜日の午後3時から、当院のスタッフが出演する「MEDICAL UPDATES」のコーナーが好評放送中です。9月も引き続き循環器内科 部長 大野真紀医師が、高血圧、狭心症や心筋梗塞、不整脈、弁膜症、心不全など身近な循環器疾患をテーマに、症状や治療法、早期発見・早期治療の大切さをわかりやすく紹介します。



第4話 血栓回収療法とは？

脳梗塞は、脳の血管が詰まることで起こります。小さな血管が詰まることもあります。中には脳の太い血管が血栓(血のかたまり)でふさがってしまう場合があります。このような脳梗塞では、広い範囲の脳に血液が届かなくなり、重い麻痺や言語障害、意識障害を起こし、命に関わることもあります。

以前は、脳梗塞の急性期治療というと、血栓を溶かす点滴治療が中心でした。現在でも重要な治療ですが、太い血管が詰まっている場合には、カテーテル治療の対象にもなりえます。それが「血栓回収療法」です。

血栓回収療法は、カテーテルを使って脳の血管まで到達し、詰まっている血栓を直接取り除く治療です。多くの場合、足の付け根や手首から細い管を入れます。そこから血管の中を通り、首の血管、さらに脳の血管へと進めていきます。頭を開けて脳を直接触る治療ではありません。

詰まっている場所まで到達したら、専用の器具を使って血栓を取り除きます。**血栓を吸い込む方法**や、**網のような器具(ステント)でからめ取る方法**があります。目的は、できるだけ早く血流を再開させ、脳

へのダメージを減らすことです。血流が戻ることを「再開通」と呼びます。

この治療によって、以前であれば重い後遺症が残っていたような患者さんが、大きく回復することもあります。救急外来に来た時には言葉も出ず半身の麻痺があるような場合でも、後遺症なく自宅退院できることもあります。もちろん、すべての方が元通りになるわけではありませんが、脳梗塞治療において非常に大きな進歩と言えます。

ただし、血栓回収療法はどなたにでも行える治療ではありません。どの血管が詰まっているのか、発症からどれくらい時間がたっているのか、すでにどの程度脳が傷んでいるのかを、CTやMRIなどの画像検査で確認します。そのうえで、治療によって得られる効果とリスクを考えて判断します。

また、治療がうまくいって血流が戻っても、脳のダメージが完全になくするとは限りません。発症から時間がたつほど、助けられる脳は少なくなっています。だからこそ、治療そのものだけでなく、病院に早く到着することがとても大切で、“Time is brain”とも言われます。

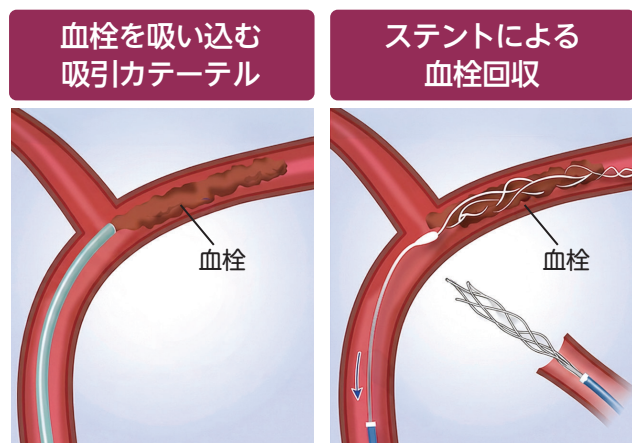
当院は日本脳卒中学会が認定する「一次脳卒中センターコア施設」であり、24時間365日血栓回収療法が可能な施設です。



Time is brain

片方の手足が動かない、顔がゆがむ、ろれつが回らない、言葉が出ない、急にふらつく。こうした症状が突然出た場合は、様子を見ずに救急車で来院されることをお願い致します。

次回のテーマは脳血管が詰まるのではなく破れてしまう「脳出血」です。



医療エッセイのバックナンバーはこちらからご覧いただけます。

<https://medical.kameda.com/general/about/magazine/index.html>



LINE公式アカウント「亀田INFO」

／亀田クリニック・亀田総合病院からの情報をお届けします／



QRコードを読み取って友だち追加を選んでください